

## 「子どもの保健」におけるマインドマップ活用の試み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢野, 潔子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00009460">https://doi.org/10.14945/00009460</a>

## 「子どもの保健」におけるマインドマップ活用の試み

矢野 潔子\*

### Application of Mind Maps to Children's Healthcare Programs

Kiyoko YANO

#### 要旨

保育士養成課程等における必須科目「子どもの保健」では、保育現場において、子ども一人一人の心身の状態や発達の過程を踏まえた保健的対応、子ども集団全体の健康と安全を図ることのできる基礎的な知識・技術を習得することが求められる。しかし、その内容は専門性が高く、学生が苦手意識をもつ科目の一つとなっている。

そこで本研究では、学生が「子どもの保健」の授業内容に興味や関心を持ち、さらに授業の理解を深めることを目的として、マインドマップを活用したノートテーキングを試みた。実施後に行った無記名自記式質問紙調査の結果では、講義内容の理解とマインドマップに関する評価との間に相関が認められ、マインドマップ活用によるノートテーキングは学習理解の助けになっていることが示唆された。

キーワード：マインドマップ 保育士養成 子どもの保健 教授法

#### I はじめに

子どもにふさわしい生活時間や生活リズムをつくれない保護者、不安や悩みを抱える保護者の増加による養育力の低下、児童虐待の増加、家庭や地域社会の教育力の低下など、子どもを取り巻く状況が変化し、保育所に期待される役割は大きくなってきている（厚労省，2008）。

2008（平成20）年3月、改定保育所保育指針が厚生労働大臣により告示され、各保育所には保育指針に基づく保育を豊かに展開していくことが求められている。保育所保育指針とは、保育所における保育の内容やこれに関連する運営及び子どもの最善の利益のため、全国の認可保育所が一定の保育水準を担保するための仕組みについて法令として定めたものである。

保育所保育指針の改定を受け、2010（平成22）年3月24日、保育士養成課程等検討会は「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」を提言し、保育士養成課程改正のなかで、教科目の新設や教科目の名称の変更について言及した。

子どもの保健は、従来の「小児保健」を「子どもの保健Ⅰ（講義）」及び「子どもの保健Ⅱ（演習）」として、名称変更案として示されたものである。「小

児保健」から「子どもの保健」への名称変更理由として、保育現場において、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえた保健的対応を行うことや、子ども集団全体の健康と安全を考えること等の重要性をかんがみることがある（厚労省，2010）。よって、保育士養成課程においては、子どもを取り巻く状況の変化、教科の新設や名称変更に至った経緯を踏まえ、各科目の内容の見直しや改善を図ることが望まれる。

子どもの保健に関する研究としては、小林（2013）の母子手帳を活用した子どもの保健Ⅰの実践報告や、森本（2012）のアンケート調査による子どもの保健Ⅱの授業内容検討などがあるが、その数は少ない。

山本ら（2007）は、小児保健に関する科目について、テキストに使用されている用語のほとんどが医学用語であり、授業内容も理解度が高く、再試験者の多い科目の一つであると指摘している。

「子どもの保健」は、保育士養成課程等（大学の子ども学部や短期大学の保育科、専門学校など）における必須科目の一つである。指定保育士養成施設指定基準「教科目の教授内容」では、子どもの保健に関する科目の内容として、子どもの保健Ⅰと子どもの保健Ⅱに分け明記されている。子どもの保健Ⅰ（講義・4単

\* 静岡大学学術院教育学領域

位)の内容は、①子どもの健康と保健の意義、②子どもの発育・発達と保健、③子どもの疾病と保育、④子どもの精神保健、⑤環境及び衛生管理並びに安全管理、⑥健康及び安全の実施体制であり、子どもの保健Ⅱ(演習・1単位)は①保健活動の計画及び評価、②子どもの保健と環境、③子どもの疾病と適切な対応、④事故防止及び健康安全管理、⑤心とからだの健康問題と地域保健活動からなり、保育士として子どもの健康支援を行うために欠かせない教科目であると考えられる。

そこで、本研究では学生が「子どもの保健」の授業内容に興味や関心をもち、さらに授業の理解を深めることを目的として、マインドマップ(Mind Map)を活用したノートテーキング(Notetaking)を試みた。

マインドマップとは、放射思考を図で表したものであり、思考全般に使えるツールとして、Tony Buzanにより開発された。放射思考とは、人間の脳が思考し、アイデアを生み出す過程のことをいう(Buzan, 2013)。また、マインドマップは考えていることを視覚化でき、記憶、創造性、学習の3分野で大きな効果を発揮すると考えられている(Buzan, 2013)。

マインドマップを学習のツールとして利用した教育には、マインドマップを活用したライティング活動報告(和田, 2010)、留学生を対象としたドキュメンタリー映像視聴の記録としてのマインドマップ利用(飯島, 2012)、マインドマップを利用した疾患の全体像を把握する試み(末松ら, 2014)などがある。また、自己紹介、議事録、ブレインストーミング、システム開発への活用事例も報告されている(平鍋, 2009)。このように、マインドマップは講義ノートや議事録として、さらにアイデア発想への応用として活用されている。

本研究では、マインドマップの特徴として平鍋(2009)が示したプレイバック効果、一貫性、容易性という利点をノートテーキングに用いることにした。

## II 実施方法

まず、A大学の保育士養成課程における「子どもの保健」に関する科目構成及び概略について述べ、実施対象及び期間、具体的なノートテーキングの方法について説明する。

### 1. 子どもの保健の概要

現行の指定保育士養成施設指定基準「教科目の教授内容」では、必修科目・保育の対象の理解に関する科目として、「子どもの保健Ⅰ(講義・4単位)」及び「子どもの保健Ⅱ(演習・1単位)」が定められている。A大学の保育士養成課程では、2011(平成23)年度入学生から、指定保育士養成施設指定基準に沿った新カリキュラムへと移行した。

A大学保育士養成課程における子どもの保健に関する科目について、表1「開講科目名」に示す。A大学では、指定保育士養成施設指定基準で定められている「子どもの保健Ⅰ」講義4単位を「子どもの保健Ⅰ」と「子どもの保健Ⅱ」、各2単位に分けて運用している。

科目担当者は、子どもの保健Ⅰは非常勤の小児科医、子どもの保健Ⅱ及び子どもの保健Ⅲは、看護師免許を有する専任教員である。

開講時期は、1年次前期に子どもの保健Ⅰ、1年次後期に子どもの保健Ⅱ、2年次前期に子どもの保健Ⅲとなっている。

授業内容は、概ね指定保育士養成施設指定基準「教科目の教授内容」で示されている各教科目の内容に沿っている。

表1 開講科目名

指定基準	A大学の開講科目
【旧】 小児保健(講義・実習) 5単位	【旧】 小児保健(講義)2単位 小児保健実習(演習)3単位
【新】 子どもの保健Ⅰ(講義) 4単位	【新】 子どもの保健Ⅰ(講義) 2単位 子どもの保健Ⅱ(講義) 2単位
子どもの保健Ⅱ(演習) 1単位	子どもの保健Ⅲ(演習) 1単位

### 2. 実施科目及び対象者

実施科目は子どもの保健Ⅱ(講義)とし、その履修生55名を対象とした。主たる履修者は1年次生である。

実施時期は2013年度後期とし、講義全15回のうち、第2回から第13回までの計12回において、マインドマップを用いたノートテーキングを試みた。

なお、授業評価は定期試験(筆記)及び課題提出にて行い、ノートの記載内容等については評価対象から除いた。

「子どもの保健Ⅱ」の授業内容について表2に示す。授業の構成は、1回目の講義で提示する「B保育所の保健計画」を参考資料とし、4~6月、7~9月、10~12月、1~3月の4期に分けて各回のテーマを設定した。

子どもの保健Ⅱの学習目標は、①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する、②子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する、③保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する、④施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する、以上4つであ

る。

これらの学習目標は、指定保育士養成施設指定基準に示されている「子どもの保健Ⅰ（講義・4単位）」の目標を参照し設定した。

表2 子どもの保健Ⅱの授業内容（2013年度）

回	テーマ
1	(マインドマップ作成についての説明) 保育所における保健計画
2	健康状態の把握
3	衛生的な健康生活, 生理的欲求
4	内科検診, 歯科検診, 身体測定
5	手洗い, 歯みがき
6	アレルギー対策
7	事故対策, ハザードマップ
8	ケガの防止
9	水遊び, 熱中症対策
10	感染症の種類など
11	身体の働き・仕組み
12	保育室の環境(温度・湿度・換気)
13	感染症対策, 予防接種
14	保護者支援, 保健指導
15	

### 3. ノートテーキングの方法

マインドマップを描くためには、いくつかの決まりがある。W. Read (2005) は、12 のルールを示している。また、T. Buzan ら (2013) は、マインドマップ作成のヒントとして 10 つあげている。それらを参考にして、本研究ではノートテーキングの基本 6 項目として学生に示した。

学生に示したノートテーキングの基本 6 項目、及び指導上の留意点について以下に述べる。実施に際しては、各回、授業の冒頭で講義のテーマについて解説し、講義テーマのイメージを描く時間を設けた。また、授業終了前にノートを整理する時間を 10~15 分間設定した。

- (1) A4 ノート（見開き A3）を使用する  
マインドマップでは、無地の白い用紙を横長に使うことが推奨されている。そこで、事前に無地の A4 ノートを準備し、履修生全員に第 1 回目の講義で配布した。
- (2) テーマを中央にイラストで描く  
講義テーマをイメージイラストとして描かせる。2~3 分程度、描くための時間を設ける。
- (3) カラフルに描く  
色鉛筆やカラーペンを各自で準備させる。色を付けることで、記憶を促すように意識させる。
- (4) 中心から外側に向けてブランチを広げる  
ブランチとは、枝や線のことを意味する。ブランチは、太さを変化（太い→細い）させるように促す。

チは、太さを変化（太い→細い）させるように促す。

- (5) 1 ブランチに 1 ワード、キーワードを書く  
文章化せずに、単語で記入させる。
- (6) 楽しんで描く

自分らしく、独自のスタイルで創造的に描くことを意識させる。なお、事前にマインドマップの記載内容や出来栄等は、評価の対象としないことを説明した。

## Ⅲ 評価方法

### 1. 調査方法及び項目

マインドマップについての自己評価、及び授業評価に関する調査を無記名自記式質問紙、留置法により実施した。

調査は、授業最終日に行った。調査協力の依頼に際して、口頭にて調査の趣旨及び成績評価には影響しないこと、強制ではないこと、調査協力の同意が得られる場合は、質問紙の提出をもって同意したものとみなす旨を伝えた。質問紙は、別室に設置した回収箱にて回収した。

質問紙の調査項目は、マインドマップについて「①中心のイメージを丁寧に描けましたか」、「②枝（ブランチ）は、中心から外側に広がるように描けましたか」、「③枝のすぐ上に単語や絵が描けましたか」、「④カラーペンや色鉛筆などを使ってカラフルに描けましたか」、「⑤自分なりの系統立てができましたか」、「⑥楽しく描くことができましたか」の 6 項目及びマインドマップに関する感想についての自由記述欄を設けた。さらに、子どもの保健Ⅱの講義内容について、「講義の内容は理解できましたか」及び講義の感想について自由記述を求めた。

各質問項目には、「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の 3 件法で回答してもらった。

### 2. 分析方法

「①中心のイメージを丁寧に描けましたか」、「②枝（ブランチ）は、中心から外側に広がるように描けましたか」、「③枝のすぐ上に単語や絵が描けましたか」、「④カラーペンや色鉛筆などを使ってカラフルに描けましたか」、「⑤自分なりの系統立てができましたか」、「⑥楽しく描くことができましたか」及び「講義の内容は理解できましたか」の 7 項目について、単純集計を行った。

次に、「講義の理解」とマインドマップに関する上記 6 項目について、クラメールの連関係数にて分析を行った。統計ソフトは、IBM SPSS Statistics Version 22 を使用した。マインドマップに関する自由記述については、質的内容分析を行った (U. Flick, 2011)。

## IV 結果

### 1. 学生が作成したマインドマップ

図1及び図2は、3回目の講義「衛生的な健康生活」において、図3及び図4は13回目の講義「感染症対策及び予防接種」にて学生が記録したノートである。

作成されたものを見ると、マインドマップのテーマとなるタイトルが中心に描かれていることが分かる。図1及び図2は、「衛生管理」であり、図3及び図4は「感染症対策」となっている。中央に描かれたイラストは、セントラル・イメージ (central image) と呼ばれ、特徴的な絵を使って印象を強める効果がある (平鍋, 2009)。図1は星、図2は家、図3はマスクをした女の子、図4はワニが中央にテーマと共に描かれている。さらに、セントラル・イメージの周りに枝 (ブランチ) を伸ばすように加え、キーワードを書き入れながらさらに枝を広げるなど、「II 実施方法」においてノートテーキングの基本として示した方法に従っているといえよう。

### 2. 調査結果の概要

履修者数 55 名を対象として行った無記名自記式質問紙調査の回収率は、94.54% (52 名) であった。表3に各項目の回答結果を示す。

マインドマップに関する6項目において、「はい」と回答した者が最も多かったものは、「枝 (ブランチ) は、中心から外側に広がるように描けましたか」及び「楽しく描くことができましたか」の2項目であり、いずれも 37 名 (71.16%) であった。次いで、「自分なりの系統立てができましたか」33 名 (63.46%) となっていた。

「枝のすぐ上に単語や絵が描けましたか」と「カラーペンや色鉛筆などを使ってカラフルに描けましたか」の2項目については、約6割が「いいえ」及び「どちらともいえない」と回答していた。また、マインドマップに関する6項目において、全項目「はい」と回答した者は10名 (19.23%)、全項目「いいえ」又は「どちらともいえない」と回答した者は2名 (3.84%) であった。

講義の内容については、46名 (88.46%) が「講義内容は理解できた」と回答していた。

### 3. 講義内容の理解とマインドマップとの関係

次に、講義内容の理解とマインドマップ評価の関連性をみるために、マインドマップに関する6項目について、4項目以上に「はい」と回答した者を高評価群 (=2)、4項目以上に「いいえ」と回答した者を低評価群 (=1) として分析を行った。なお、マインドマップの評価について、「はい」と「いいえ」の回答数が共に3であった7名を除く46名分を分析データ



図1 テーマ「衛生管理」

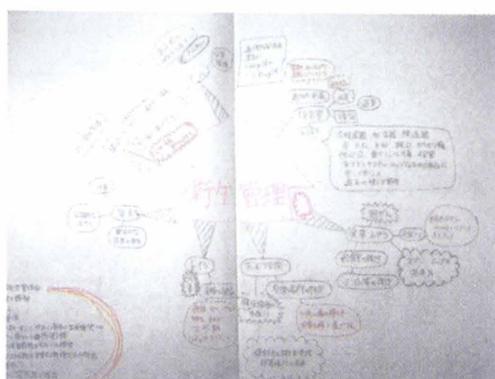


図2 テーマ「衛生管理」

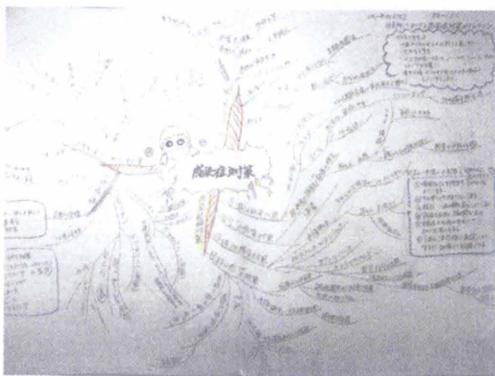


図3 テーマ「感染症対策」

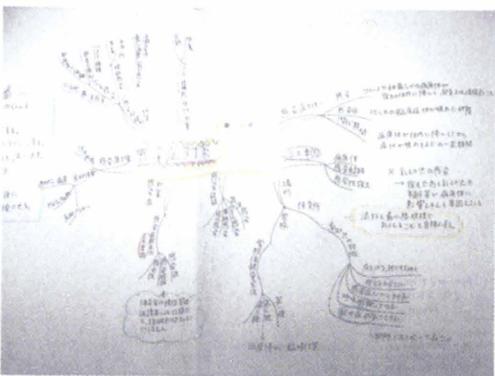


図4 テーマ「感染症対策」

表3 回答結果

(n=52)

項目	はい (%)	いいえ (%)	どちらともいえない (%)
中心のイメージを時間をかけて丁寧に描けた	23 (44.23)	9 (17.31)	20 (38.46)
枝 (ブランチ) は中心から外側に広がるように描けた	37 (71.16)	4 (7.69)	11 (21.15)
枝のすぐ上に単語や絵が描けた	23 (44.23)	13 (25.00)	16 (30.77)
カラーペンや色鉛筆などを使ってカラフルに描けた	20 (38.46)	13 (25.00)	19 (36.54)
自分なりの系統立てができた	33 (63.46)	6 (11.54)	13 (25.00)
楽しく描くことができた	37 (71.16)	1 (1.92)	14 (26.92)
講義内容は理解できた	46 (88.46)	0 (0.00)	6 (11.54)

表4 Fisherの正確確率検定結果

		講義内容		p値 (片側)
		理解できなかった (%)	理解できた (%)	
中心のイメージを時間をかけて丁寧に描けた	低評価	5 (9.62)	24 (46.15)	0.157
	高評価	1 (1.92)	22 (42.31)	
枝 (ブランチ) は中心から外側に広がるように描けた	低評価	2 (3.85)	13 (25.00)	0.565
	高評価	4 (7.69)	33 (63.46)	
枝のすぐ上に単語や絵が描けた	低評価	6 (11.54)	23 (44.23)	0.023
	高評価	0 (0.00)	23 (44.23)	
カラーペンや色鉛筆などを使ってカラフルに描けた	低評価	4 (7.69)	28 (53.85)	0.578
	高評価	2 (3.85)	18 (34.61)	
自分なりの系統立てができた	低評価	5 (9.62)	14 (26.92)	0.020
	高評価	1 (1.92)	32 (61.54)	
楽しく描くことができた	低評価	3 (5.77)	12 (23.08)	0.225
	高評価	3 (5.77)	34 (65.38)	

として用いた。

その結果、講義内容の理解とマインドマップの評価との間には、弱い正の関連が認められた ( $\Phi = .293$ ,  $p < .05$ )。

さらに、マインドマップ6項目のうち、講義内容の理解の助けになっている項目を明らかにするために、「講義内容の理解」と各項目について Fisher の正確確率検定を行った。なお、3件法で得た回答から「はい」と回答した者を高評価 (=2)、「いいえ」及び「どちらともいえない」と回答した者を低評価 (=1) とした。分析結果を表4に示す。「枝のすぐ上に

単語や絵が描けた」 ( $p = .023$ ) 及び「自分なりの系統立てができた」 ( $p = .020$ ) の2項目において有意差 ( $p < .05$ ) が認められた。

#### 4. マインドマップに関する自由記載の内容

マインドマップの感想について、47名 (90.38%) から自由記述による回答を得た。

記載内容について、マインドマップに関する内容を含む一文を分析単位として、質的内容分析の手順 (小田, 2011) によりコード化した。分析数は53であり、【難しさ】、【慣れが必要】、【描き方の工夫】、

表5 マインドマップに関する感想

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的な自由記述回答	回答数
難しさ	描くのが難しかった	描くのが難しいと思いました 最後までうまくまとめることができませんでした	17
	枝の描き方が難しかった	項目によって枝を広げられたり、広げきれなかったりして少し難しいなと感じた 枝を大きく伸ばせなかった	
	自分なりの方法がよい	自分なりにまとめた方が書きやすかったです	
	イメージがわからなかった	イメージがあまりなかった	
慣れが必要	慣れると楽しくなってきた	慣れてくると自分らしいノート作りを楽しめたので良かったです 慣れてきたらだんだんと書き方も分り楽しくなっていた	13
	最初は描き方に迷った	最初は描くか迷った 最初は描くのが難しく苦戦しましたが、後半になってくるとなんとなく分かってきた	
	慣れると考えが広がる	慣れてくるといろいろなアイデア、意見、考えなどが出てくるようになった	
	慣れるまで時間がかかった	慣れるまでに時間がかかった	
	慣れると上手にまとめられた	書き方が慣れてくると、自分なりにノートも上手くまとめられるようになった	
描き方の工夫	見やすくする	もっと色ペンを使ったり、見やすいマップにすればよかったです	8
	ノートいっぱい書く	字を大きく書いてノートいっぱい書いて見やすくすればよかった 工夫がもっと必要だと思った	
発想の広がり	関連させて勉強できた	語句からたくさん関連させて勉強することができた	5
	枝(ブランチ)がよく描けた	新鮮で、自分のペースで好きなように枝をのぼすことができた	
	発想が広がった	自分の発想を広げることもできました	
理解と記憶	見て分かりやすい	自分で重要なポイントをピックアップし、また復習も、見てパッと分かるのでいいなと思いました	4
	理解が深まった	自分で考えなきゃだから理解が深まった	
	記憶に残った	記憶に残ったので良かった	
楽しさ	楽しかった	描くのが楽しかったです 絵をかくのが好きだったので楽しかったです	4
見辛さ	見にくかった	枝に字を書くので、まとめた後にも見にくく感じました	1
身体を使う	手も頭も使った	大学に入ってノートに書くことが少なくなっていたので頭も手も使い良かった	1

【発想の広がり】、【理解と記憶】、【楽しさ】、  
【見辛さ】、【身体を使う】にカテゴリー化できた。

**V 考察**

講義の内容については、46名(88.46%)が「講義内容は理解できた」と回答していた。さらに、講義内容の理解とマインドマップの評価との間には、弱い正の関連が認められたことから、マインドマップによるノートテーキングは、講義内容の理解を深める助けになっていることが示唆された。特に、調査項目の6項目のうち、講義内容の理解と「枝のすぐ上に単語や絵が描けた」、及び講義内容の理解と「自分なりの系統立てができた」の項目間において有意差が認められ、単語や絵が描ける、又は自分なりの系統立てでノート

テーキングができた学生は、講義内容が理解できていたと考えられる。

高橋(2012)は、マインドマップが学習効果を高める要因として、思考整理因子、対象把握因子、作業効率因子の3因子があるという。思考整理因子とは、自分の考えを明確にすること、物事をまとめることである。対象把握因子とは、物事の全体像及び細部を把握すること。作業効果因子とは、時間を有効に使うこと、効率的に作業をすることであり、非文章化が求められる。本研究では、「単語や絵が描ける」は高橋がいう思考整理因子や作業効率因子にあたり、「系統立てができる」は対象把握因子であるといえる。つまり、ノートテーキングの方法として示した、枝のすぐ上に単語や絵を描くことや自分なりの系統立てを意識する

ことは、学習効果を高めることになり、子どもの保健の授業にマインドマップを活用する際の留意点となる。

また、平鍋（2009）は、マインドマップの特徴として、①プレイバック効果：思い出させること、②一貫性：全体を見渡せること、③速記性：すばやく記述できること、④容易性：誰でも描けること、⑤半構造：構造を柔軟に変更できること、⑥生産性と創造性：描いていて楽しいことを掲げている。

本研究では、マインドマップの特徴とされるプレイバック効果、一貫性、容易性を期待してノートテークングを実施した。マインドマップに関する感想をみると、カテゴリー【理解や記憶】に関連すると思われるプレイバック効果や一貫性について、【楽しさ】に示されるような生産性と創造性についての記載がみられた。つまり、マインドマップを活用したノートテークングにおいても、マインドマップの特徴であるプレイバック効果や一貫性、生産性と創造性が活かしていると考える。

また、図1及び図2に示すように、授業3回目にて、マインドマップを活用したノートテークングができていた。このことから、速記性や容易性というマインドマップの利点は、講義中のノートテークングにおいても活用できると思われる。

しかし、一方では多くの者が難しさを感じていた。よって、マインドマップを活用したノートテークングには、ある程度の慣れが必要であり、授業におけるノートテークングとしてマインドマップを活用するためには、練習課題を課すなど、準備時間を設けることが必要であると考えられる。

## VI おわりに

本研究では、学生が「子どもの保健」の授業内容に興味や関心をもち、さらに授業の理解を深めることを目的として、マインドマップを活用したノートテークングを試みた。授業後に行った調査では、学生の8割以上が「講義内容は理解できた」と回答しており、講義内容の理解ができた学生は、マインドマップに対する評価も高くなっていた。このことから、マインドマップによるノートテークングは、講義内容の理解を深める助けになることが示唆される。

単語や絵を描くためには、自分の考えを明確にすることが必要であり、系統立てるためには記載内容を把握することが重要である。マインドマップを活用したノートテークングでは、単語や絵を描くこと、系統立てることの2点を学生に意識させることで、講義内容の理解につながる事が期待できる。

また、マインドマップを活用する際には、事前の練習が欠かせないことも分かった。マインドマップを苦手とする学生のためにも、まずは事例検討など、グループワークでの活動にマインドマップを用いること

を提案したい。

今後の課題として、筆記試験等の成績とマインドマップとの関係性について追及し、知識の習得度など、客観的な学習効果をみていく必要がある。

## 謝辞

ノートを資料としてご呈示いただきました4名の学生さんをはじめ、調査ご協力いただきました子ども学科の学生の皆様に感謝いたします。

## 参考文献

- 飯島有美子（2012）．「マインドマップによるノートテークングの試みー「日本事情」クラスにおけるドキュメンタリー映像視聴の記録としてー」．関西国際大学研究紀要．第13号，pp.187-194.
- ウィリアム・リード（2005）．『マインドマップ・ノート術』．東京，フォレスト出版，205p.
- ウヴェ・フリック 著，小田博志 監訳（2011）．「第23章コード化とカテゴリー化 質的内容分析」．『新版 質的研究入門』．東京，春秋社，pp.393-400.
- 厚生労働省．「保育所保育指針解説書（平成20年4月）」，厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課．<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>，（2015年12月15日閲覧）．
- 厚生労働省．「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）平成22年3月24日」，保育士養成課程等検討会．  
[http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0324-6a\\_0001.pdf](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0324-6a_0001.pdf)，（2015年12月15日閲覧）．
- 小林陽之助（2013）．「「子どもの保健I」の講義における母子健康手帳の活用ー出生時の体測値を例にー」．大阪総合保育大学紀要．第8号，pp.209-213.
- 末松篤樹，野口善令，横江正道ほか（2014）．「誰も教えてくれなかった診断学・中級編ー鑑別診断を絞り込むー」．日本プライマリ・ケア連合学会誌．第37巻1号，pp.36-38.
- 高橋文徳（2012）．「マインドマップが学習効果を高める要因の検証」．尚絅学園研究紀要 B 自然科学編．第6号，pp.11-18.
- トニー・ブザン，バリー・ブザン 著，近田美季子 訳（2013）．『新版 ザ・マインドマップ』．東京，ダイヤモンド社，277p.
- 平鍋健児（2009）．「マインドマップによるアイデア発想と整理術」．情報の科学と技術，59巻10号，pp.498-504.
- 森本美佐（2012）．「保育の視点から見た「子どもの保健2」授業内容ー保育者と学生のアンケート結果からー」．奈良文化女子短期大学紀要．43号

pp. 149-157.

山本泉, 中島賢介, 善本順子 (2007). 「専門科目の理解に必要な語彙指導のあり方の研究: 保育者養成校としての取り組み」. 北陸学院短期大学紀要. 第39号, pp. 59-77.

和田一菜 (2010). 「マインドマップを用いたライティング活動の試みー目標言語で考え、構成する力の育成を目指して」. 長崎大学留学生センター紀要. 第18号, pp. 81-96.